

## 第87回マチコミリサーチ 『どうしてる？ お子さまの教育費』

ドリームエリア株式会社は、無料の緊急連絡網ツール『マチコミメール』を利用している保護者の方々を対象に、『どうしてる？ お子さまの教育費』のアンケートを実施いたしました。

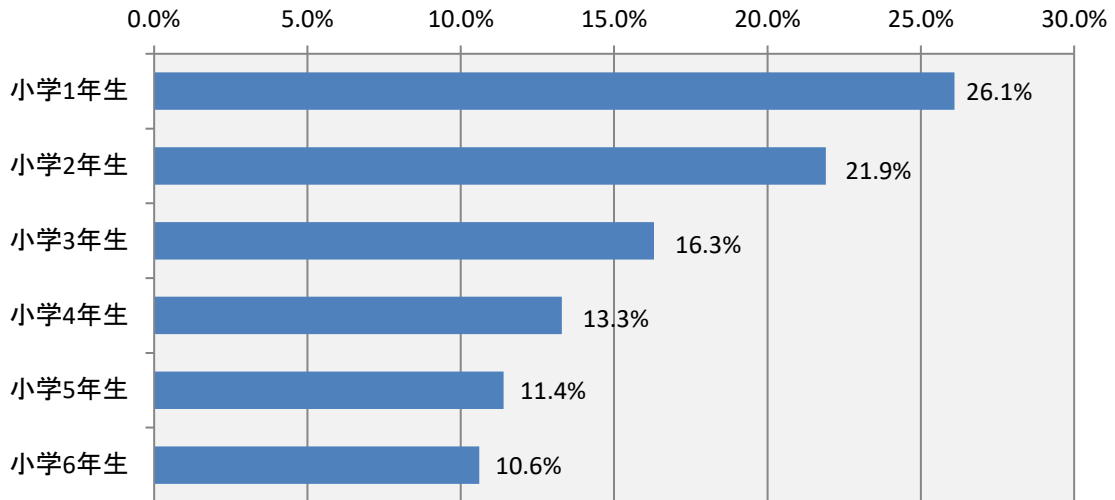
### <調査概要>

調査期間	2021年6月25日(金)～6月29日(火)
調査方法	携帯サイト上のアンケートフォームにて回答
調査対象	全国の小学校のマチコミメール会員
調査対象数	1,026,897名
有効回答数	13,371件

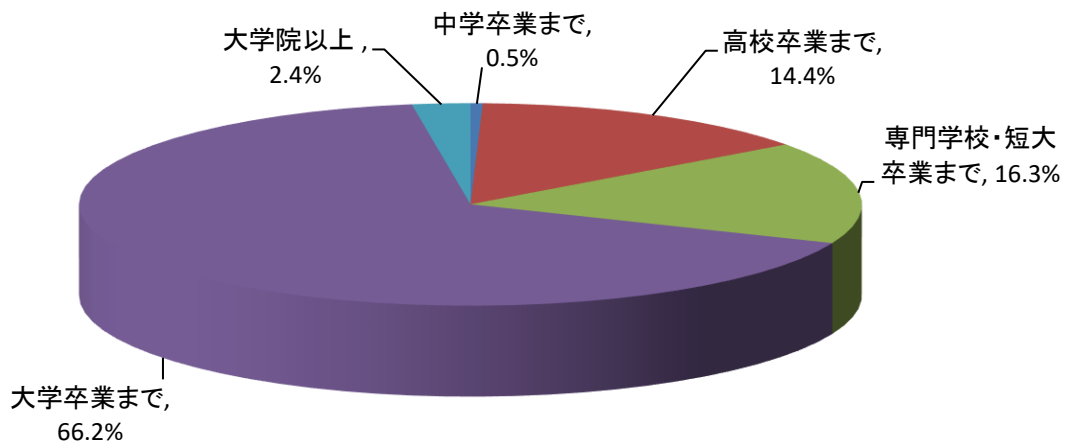
### <質問項目>

1	お子さまの学年をお選びください。小学生のお子さまが複数いる方は、一番下のお子さまの学年をお答えください。
2	お子さまの最終学歴について、保護者の方として現段階で検討されている進路をお選びください。
3	世帯年収はいくらですか？
4	コロナ下前と比べて、世帯年収に変化はありましたか？
5	1で回答されたお子さまが現在利用している家庭学習、教育学習サービス(オンラインを含む)をすべて教えてください。
6	5で利用している家庭学習、教育学習サービスを回答された方にお聞きます。ひと月当たりの費用はいくらですか？(教育以外の習い事、学校関連費用除く)
7	6で回答された金額について、どのようにお考えですか？
8	将来の教育資金について不安を感じていますか？
9	8で「不安を感じている」と回答された方へ:どのようなことを不安に思われているかを具体的に教えてください。

質問1: お子さまの学年をお選びください。小学生のお子さまが複数いる方は、一番下のお子さまの学年をお答えください。

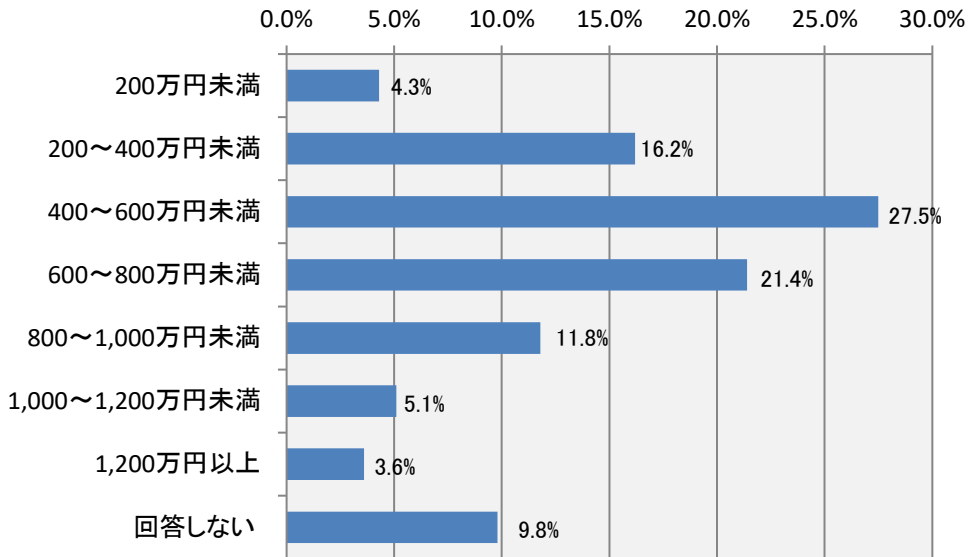


質問2: お子さまの最終学歴について、保護者の方として現段階で検討されている進路をお選びください。



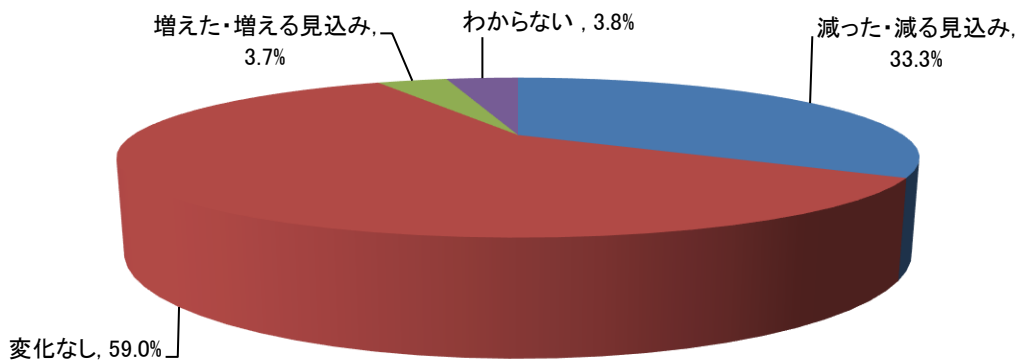
「大学卒業まで」の回答が最も多く66.2%の結果に。少子化も相まって、ここ10年ほどは大学全入時代ともいわれ、希望すれば四年制大学に入学できる時代。お子さまにも大学卒業まで学び続けて欲しいと考えている保護者の方が多い実態が分かりました。

### 質問3: 世帯年収はいくらですか？



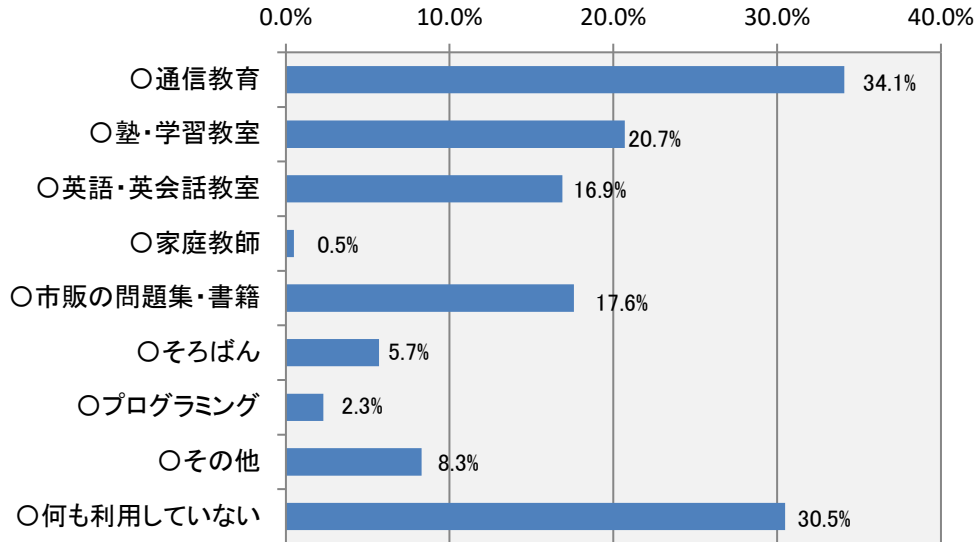
「400～600万円未満」「600～800万円未満」「200～400万円未満」の順に多い結果となりました。片働き・共働きで状況は違えど、世帯年収が200～800万円未満のご家庭が6割以上を占めるようです。

### 質問4: コロナ下前と比べて、世帯年収に変化はありましたか？



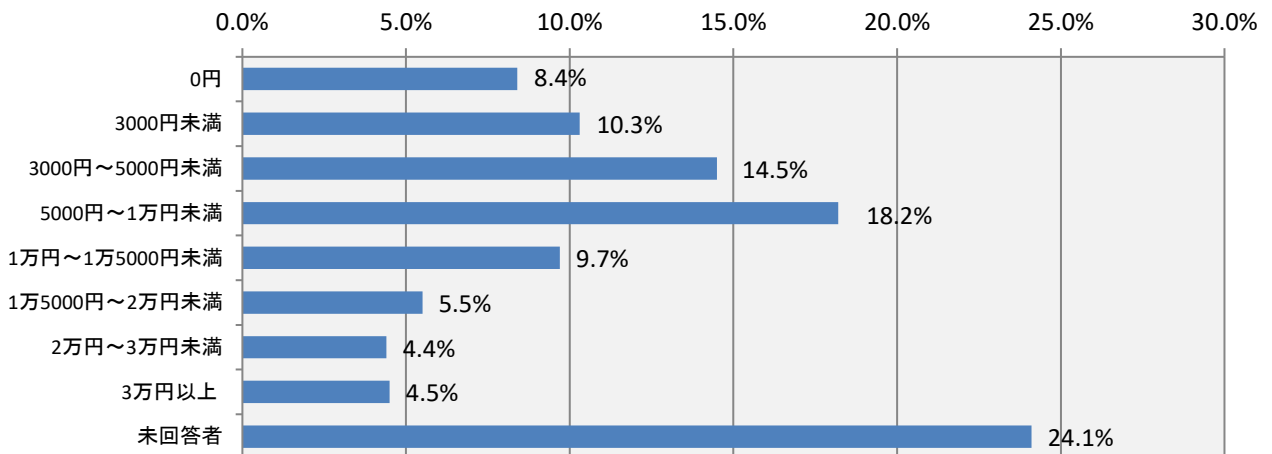
「変化なし」との回答が最も多く約6割を占めました。また、「減った・減る見込み」との回答が3割を超えており、コロナ下での社会情勢の変化が家計への大きな打撃となっているご家庭も多い状況がわかりました。

質問5:1で回答されたお子さまが現在利用している家庭学習、教育学習サービス(オンラインを含む)をすべて教えてください。



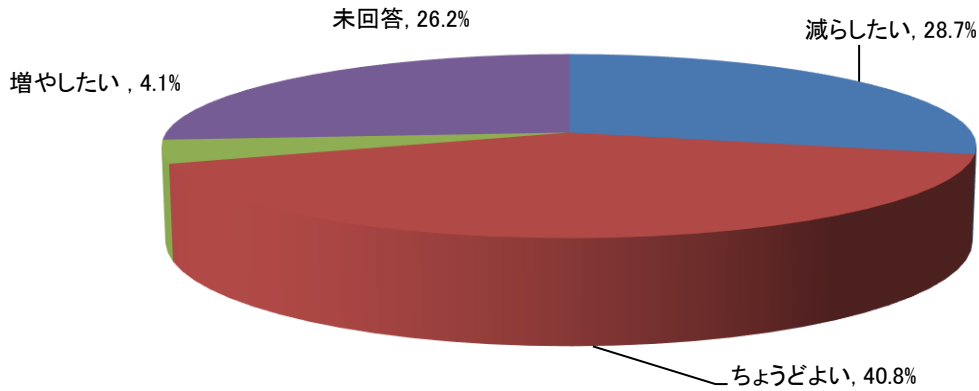
現在利用しているサービスとしても多い順に「通信教育」「塾・学習教室」「市販の問題集・書籍」という結果に。自宅にしながら取り組める通信教育の教材が根強い人気を誇ります。また、「何も利用していない」との回答も3割を超えており、今まさに新しく学習サービスの利用を検討している方も多岐にわたりますね。

質問6:5で利用している家庭学習、教育学習サービスを回答された方にお聞きます。ひと月当たりの費用はいくらですか？(教育以外の習い事、学校関連費用除く)



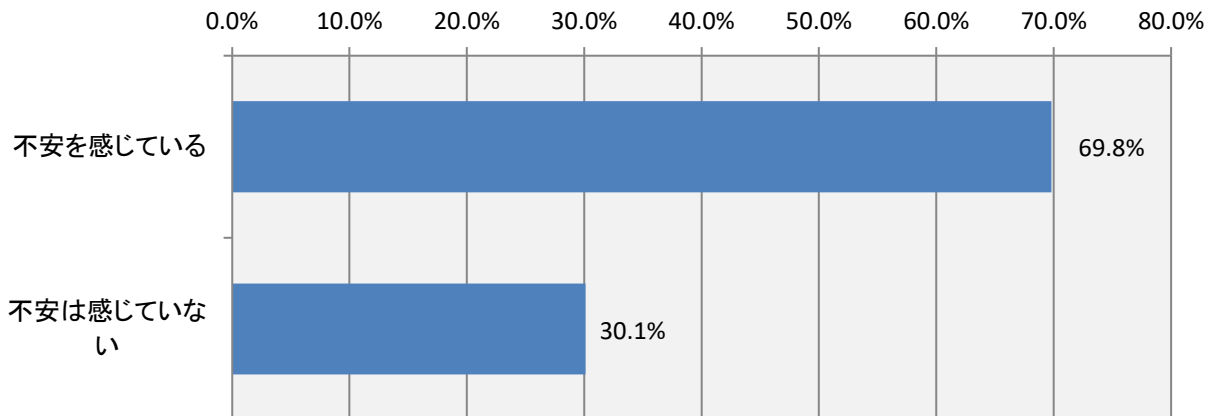
「5000円～1万円未満」「3000円～5000円未満」「3000円未満」の順で多い結果となり、4割以上を占めました。お子さまの人数にもよるところですが、学校以外の教育費にかかる金額は月に1万円以内を目安としているご家庭が多い様子がみえてきました。

質問7:6で回答された金額について、どのようにお考えですか？



現在の教育費について「ちょうどよい」と感じている方が約4割と、最も多い結果となりました。みなさん予算の中でやりくりできているご様子。しかしながら「減らしたい」と考えている方も28.7%いらっしゃる、今以上はお子さまの教育費にお金をかけられないという本音もみえてきました。

質問8: 将来の教育資金について不安を感じていますか？



「不安を感じている」との回答が約7割となりました。お子さまの進学につれてますます必要となる教育資金。お子さまの学びたい意欲や希望する進路にはできるだけ応えていきたいところですが、今のままの資金繰りで希望を叶えてあげられるのか、現状に不安を感じている方が多いようですね。

質問9:8で「不安を感じている」と回答された方へ:どのようなことを不安に思われているかを具体的に教えてください。

回答数 : 7,782件

多かったのは以下のような回答でした。

- ・貯金で賄えるのかどうか
- ・思うように教育資金が貯められない
- ・進学や塾の費用がどれだけかかるかわからない

その他にもさまざまなコメントが挙がりましたので、いくつかご紹介します。

・夫の定年後に大学へ進学する年齢になるため

・子供に障害があり、全く予測がつかないから。

・住宅ローンなどある中で教育資金と老後の資金をどの様に貯めるか（補っていけるのか）不安。

・我が家は、双子なので一度にかかるので心配で仕方ない

・母子家庭。大学までの費用を捻出できるか不安。私に病気や怪我が生じると仕事を続けられるかどうか、大学どころか、生活費も不安になる。

・毎月貯められるだけの額を貯金しているのと、生まれたときから学資保険をかけているが、このままだと全額使っても四年制大学に通わせられるだけの十分な金額ではない

## まとめ

アンケートの結果から、半数以上の方がお子さまを大学まで進学させたいと考えている一方で、かなりの方が今後の教育費について不安をもたれている状況が浮き彫りとなりました。

具体的には、今現在コツコツ貯めていても果たしてこれで足りるのか、子どもの希望する進路に進ませてあげられるのか…といった切実なお声が大半でした。幼少時は自治体からの補助もできるところはあっても、高等学校、大学への進学となると多額の教育費が必要となることもあり、今から具体的な金額がわからないため、不安を感じる様子がわかります。

また、進学のほかには塾代など、学校以外でかかる教育費の心配のお声も。現在は、自宅にいながらできる通信教育教材を利用している方が最も多い実態もわかりました。いまだ収束の気配の見えない新型コロナウイルス感染の影響もあり、新しく塾などに通い始めるハードルの高さがあるのかもしれない。

これを機に、家計に無理のない範囲で始められる学習を取り入れつつ、教育費を見直したり方向転換を計ってみてはいかがでしょうか。